

# フォレストニュース

植林が地球を救う

令和5年(2023)7月10日

No. 187

発行 高津啓洋

## レダ植樹園の整備に着手

私たちの植樹活動の拠点、パラグアイ北部チャコ地方のプエルト・レダで、これまで約20年あまり植樹を続けてきました。これまで、この「フォレストニュース」に随時、報告をしてきました。

今回は前回のレポートの続編です。レダの第一植樹園の現状を調査した結果、順調に生育してきた樹木と生育の悪く通常の樹木の高さが届かない木、そして朽ちた木を合わせると、半々の状態であることがわかりました。

さらに十分な手入れがなされないで、下草が伸び放題になっているところが多々ありました。当初から、塩分の多い土地柄であることは知っていましたので、植樹する際に、深さ1メートルの縦横1メートルの穴を掘り、塩分のない土と肥料を埋めて苗を埋めていきました。

広い第一植樹園の中でも、塩分濃度の違いがあることが、皮肉にも現状の生育状況によって確かめられたことになりました。さらに下草は塩分濃度の差も何のその、そのようなことは関係なく伸びていることに「雑草」の生命力の強さには目を見張る思いです。

この1か月、第一植樹園の正確な姿をするために下草を刈ることにしました。掲載されている写真を見て頂けると、同植樹園の現状が理解していただけたと思いますが、下草を刈るのも一苦労です。

下草と言っても、簡単に刈ることのできる草や根っこが地中深く張って容易に刈ることのできるものなどさまざま。幹に弦を伸ばした草もあり、時間がドンドン経つばかりです。作業は、他にいろいろありますから、下草刈りばかり一日中して

いるわけにはいきません。

下草刈りをはじめて1、2週間してようやく下草刈りの手順も方法もわかったところで、先が見え始め、今後の植樹園全体の把握の計画が立てられると実感しました。それは次のようなものです。

- ①下草刈り
- ②生育した樹木の範囲と未成熟・朽ちた樹木の範囲の分布地図の作成
- ③第一植樹園の下草刈り終了と次に他の植樹園の下草刈り開始
- ④レダ全域の植樹に適したエリアと不向きな範囲の確定
- ⑤植樹に不向きな土地の新しい土地利用の方法を策定

私たちの今後の活動は、レダにおける植樹園の再生とレダ以外の他の町村、各施設周辺への新しい植樹を平行して行いたいと改めて思いました。

### 高尾小仏峠育樹祭に参加(続)

2017年10月の小仏植樹祭が始まり、毎年、春、秋植樹と育樹祭がおこなわれます。

「地球の緑を守る会」はふるさとの木によるふるさとの森づくりを提唱している横浜国大名誉教授宮脇昭先生の宮脇方式により、自然の森の再生、それに伴う環境保全、生態系の保全、地球温暖化の抑制、自然災害の防止に積極的に取り組んでいます。今回の育樹祭は昨年春に植樹した苗木の草取りでした。国内の森林はスギやヒノキのため荒れ放題です(写真)。樹種を選択をして植樹をします。(写真)高木、亜高木、低木、下草の多層群落の森を再生することに力を注いでいます。(溝垣記)



伸び放題



荒れ放題



下草刈り後



下草を刈る青年



荒れた森



育樹風景